

“ともに創ろう、日本のアジャイル”  
Agile Japan 2013



# NTTデータのグローバルワイドな アジャイル開発の取り組み

～比べてわかる日本の良い点・改善点～

2013年5月24日

NTT DATA



# NTTデータがアジャイルをする理由

**変化が早く、不確実性が高いビジネス環境**において、  
ビジネスを成功させるためのITのあり方



**ITサービスの失敗リスクを低減**



**継続的なビジネス価値を向上**



**IT投資対効果を最大化**

アジャイル開発 ≠ モノを「正しく作る」方法  
アジャイル開発 = 「正しいモノ」を作る方法

グローバルビジネスの成功には、「迅速さ」が  
重要であると答えた経営者： 88%

「迅速さ」が差別化要素の中心であると  
答えた経営者： 50%

**お客様や社会のニーズが多様化・高度化**



**システムインテグレーションに頼った  
ビジネス構造ではなく、  
市場の変化に対応した多様なITサービスの拡大が課題**



# NTTデータのアジャイル開発への取組



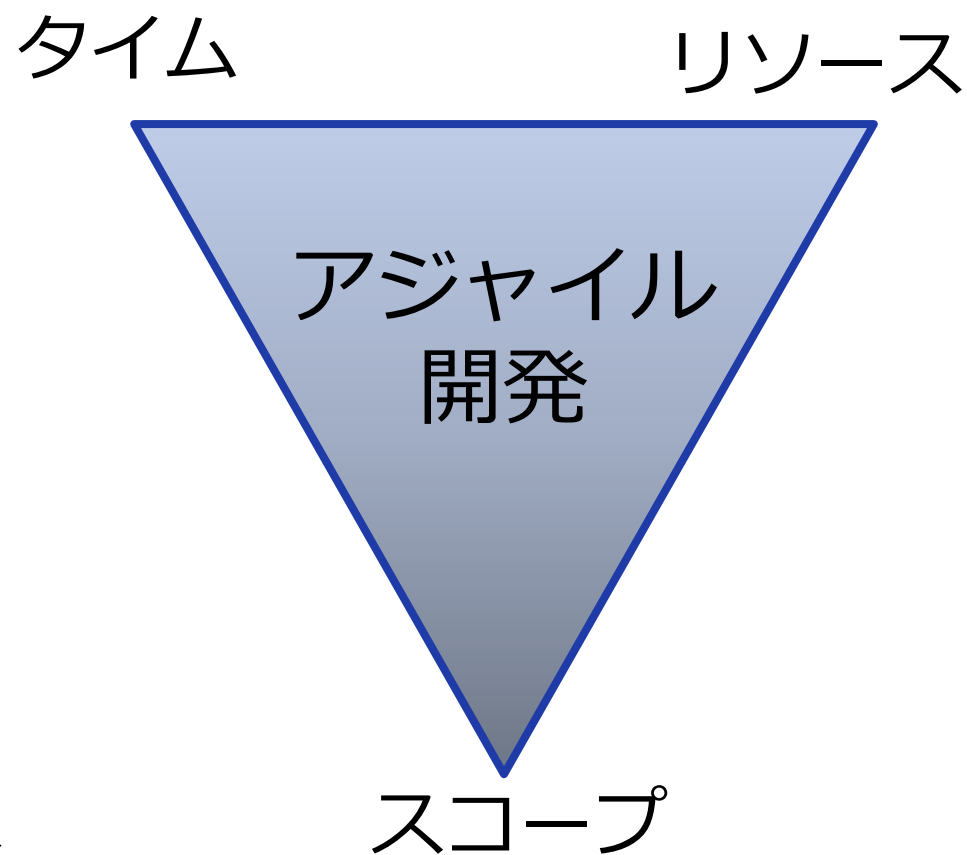
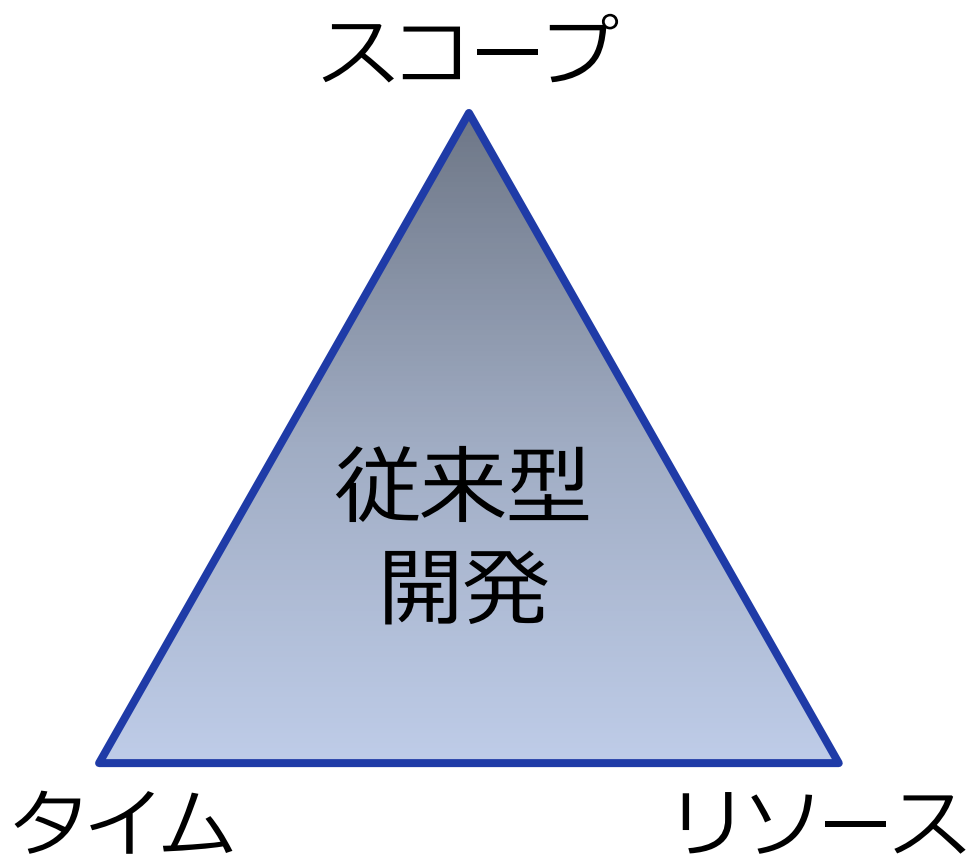


- 【講義】 アジャイル開発手法の概要
- 【講義/演習】 Scrumにおけるチームと役割
- 【講義/演習】 Scrumにおけるイベントとプロセス
- 【講義/演習】 Scrumにおける成果物
- 【講義】 Scrumにおけるコミュニケーションと情報の透明性
- 【演習】 「自組織への導入」をテーマにワールドカフェ





## 固定する要素



## 変化させる要素

- 【講義/演習】プロダクトオーナーの役割
- 【講義/演習】ビジネス価値の高いソフトウェアの企画方法
- 【講義/演習】最適な開発計画
- 【討議】自組織へScrumを導入するためには

Japan / Area / Language 投資家・株主の皆様へ / サイトマップ

**NTT DATA**  
変える力。ともに進みます。

業種別 サービス別 お客様事例 技術＆レポート ニュース 採用情報 NTTデータについて

ホーム > ニュース > ニュースリリース > 2012年 >

## NTTデータグループと楽天がアジャイル開発人材育成プログラムを共同開発

シェア 印刷 お問い合わせ

2012年11月2日  
株式会社NTTデータ  
株式会社NTTデータユニバーシティ  
楽天株式会社


株式会社NTTデータ（本社：東京都江東区、代表取締役社長：岩本 勉男、以下NTTデータ）と株式会社NTTデータユニバーシティ（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：兼田 武文、以下NTTデータユニバーシティ）、楽天株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役会長兼社長：三木谷 浩史、以下楽天）は、NTTデータグループおよび楽天グループの社員を対象としたアジャイル開発人材育成プログラムを共同で開発し、2012年12月より各社社員向けに同プログラムを利用した研修を開始します。

ビジネス環境の急激な変化が早い現代では、お客さまにとっての価値創出のために、ニーズに合わせたITシステム・サービスを少しでも早く提供していくことが求められています。このため、アジャイル開発手法の重要性がより顕著になり、その導入が急務と

2012年のニュースリリース




2012年11月1日 NTTデータとアイルランド国立ウォーターフォード工科大学ICT研究施設TSSGが共同研究を開始 〜ビッグデータ/ビジネス・アナリティクスにおけるデータ分析技術の開発〜	2012年11月5日 勤務計画改善とスタッフのコミュニケーションを支援する「決断シフトモバイルサービス」を提供開始（株式会社NTTデータ・キスシステムズ）
--	--

ニュースリリースアーカイブ

ニュース 

## NTTデータと楽天が共同でアジャイル教育コース作成、両社で180人育成へ

2012/11/05  
高橋 信頼 = ITpro

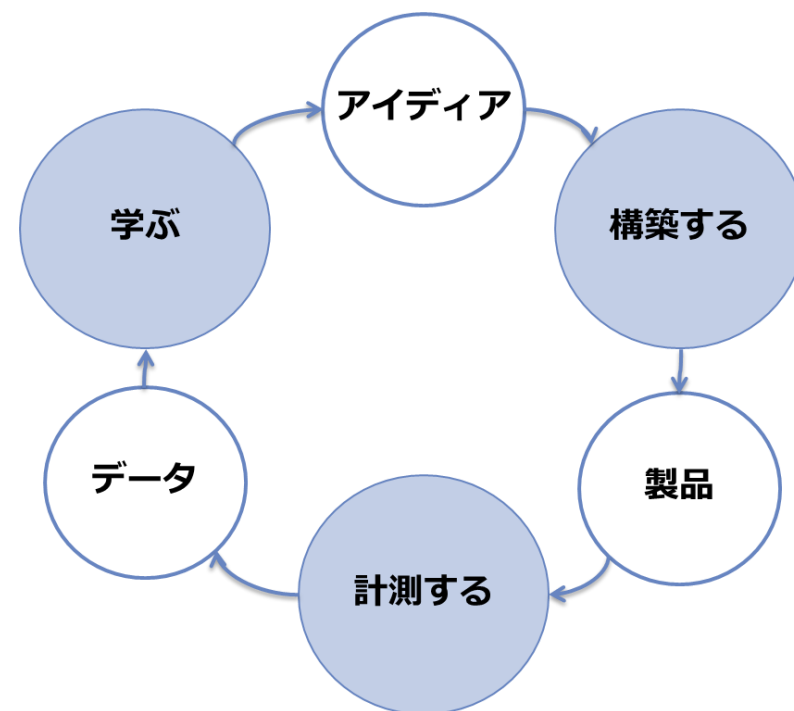
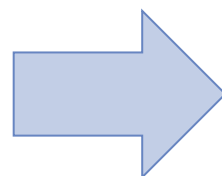
記事一覧へ >>  いいね! 31  ツイート 43 

NTTデータ、NTTデータユニバーシティ、楽天は2012年11月2日、アジャイル開発人材育成プログラムを共同で作成すると発表した。2012年12月よりNTTデータグループおよび楽天グループの社員向けに、同プログラムを利用した研修を開始する。

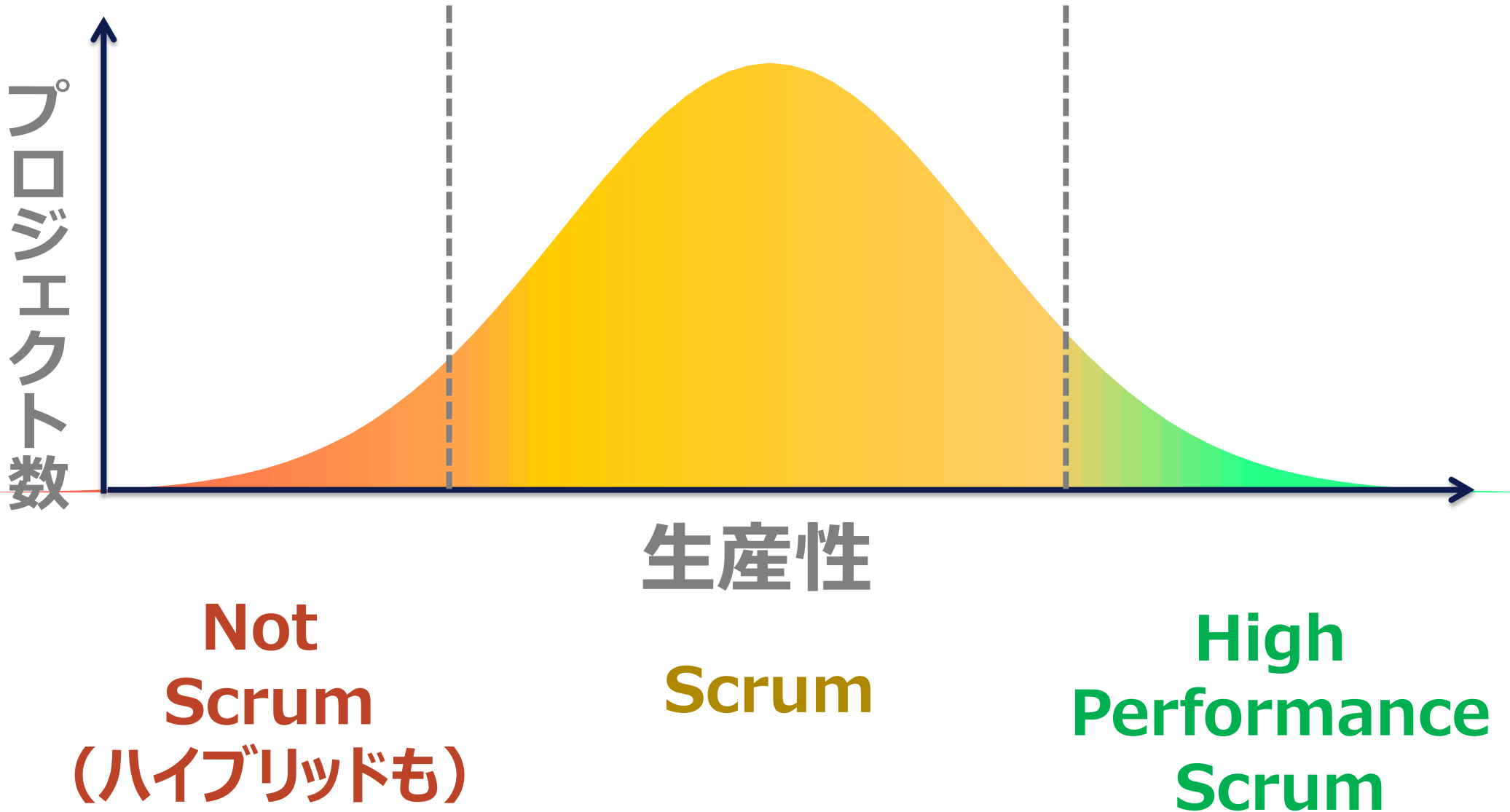
具体的には、アジャイル開発の代表的な手法の一つ「Scrum開発手法」での意思決定責任者である「プロダクトオーナー」育成のための研修コースを作成する。NTTデータと楽天が研修コンテンツの作成を、NTTデータユニバーシティが研修サービスの運営を担当する。

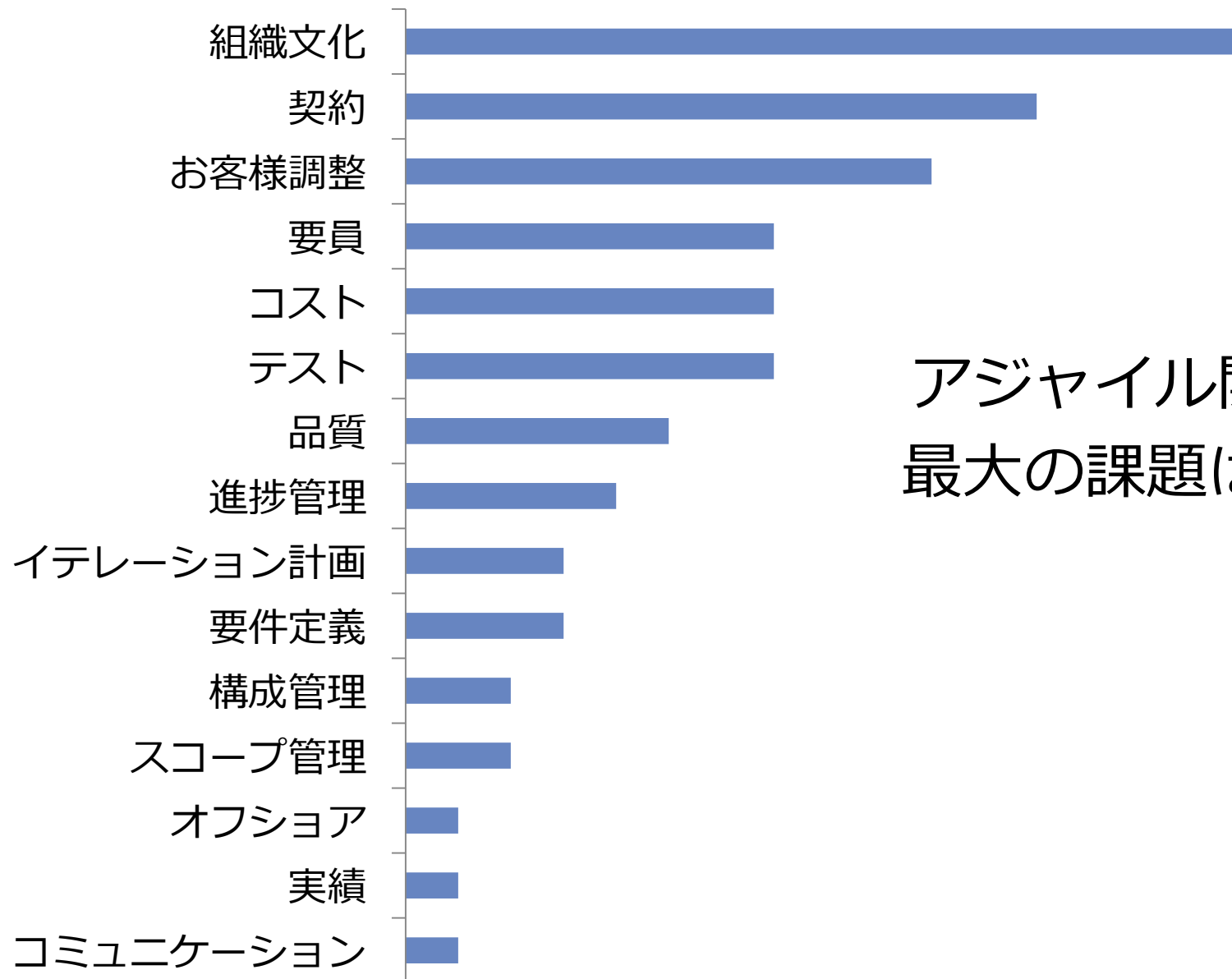
NTTデータグループおよび楽天グループの、主に新規サービス企画立案に携わる社員を対象とする。2012年度はNTTデータグループと楽天グループであわせて60人、2013年度には180人の社員への研修実施を目指す。

重厚長大な事業計画書から、**検証済みのアイデア**へ



# しかし高い生産性が出せるのは一握り

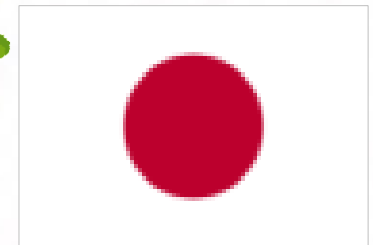
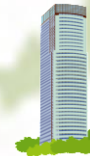
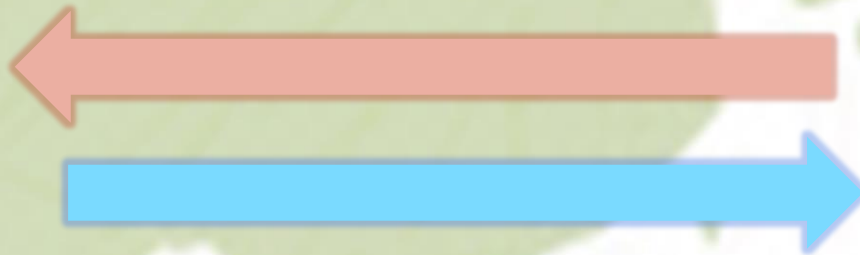


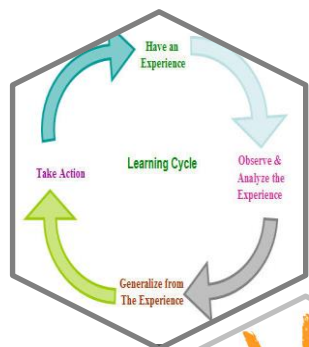


アジャイル開発の導入の  
最大の課題は**組織文化**

できました

# インドでアジャイル開発の実践を行う 8週間の研修プログラム





アジャイルを実践する場



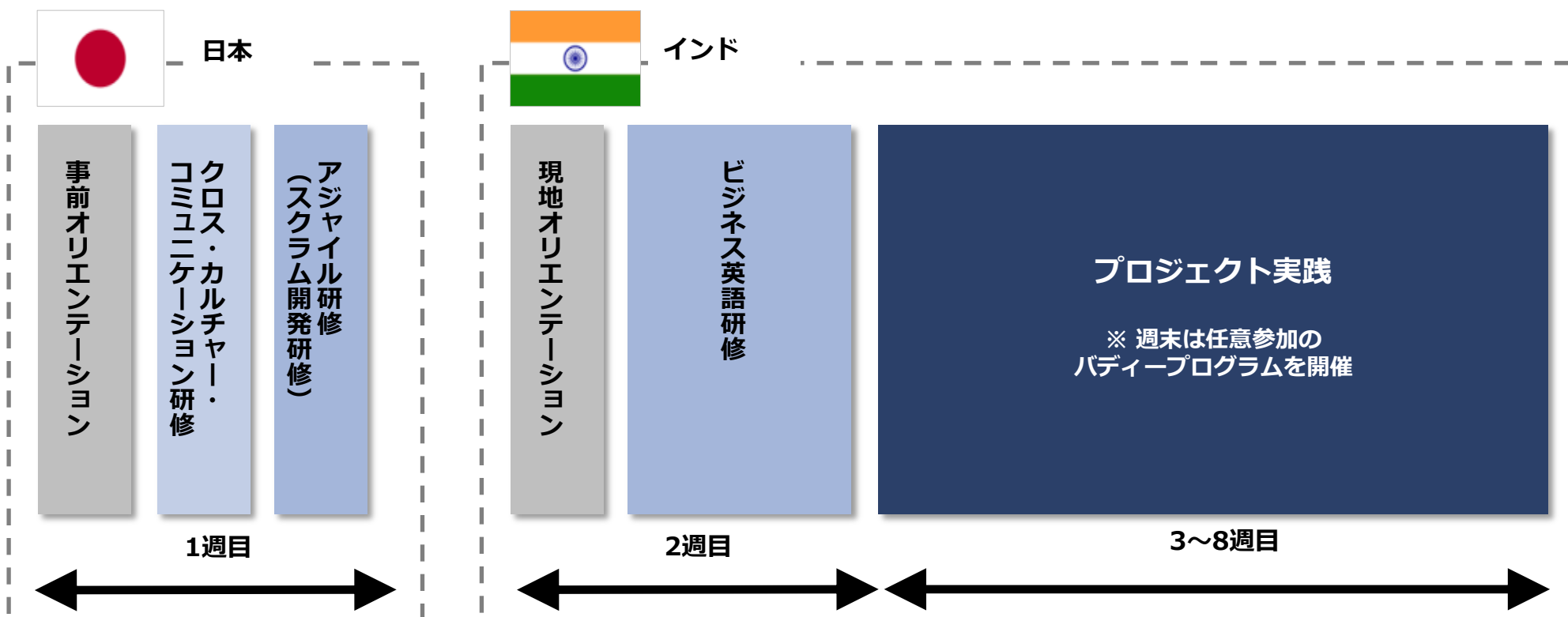
アイディアの検証の場



グローバルコミュニケーションの場



## アジャイル、英語、異文化の基本的な研修を受講し**実践へ**



## プロジェクト 実践

- ・ インド人メンバーとの混合チームでプロジェクトを実施
- ・ 1週間のスプリントを複数回実施し、**実際の現場にてスクラムを習得**
- ・ 要望に応じて参加者企業の**実プロジェクトをテーマにすることも可能**

## バディー プログラム (課外活動)

- ・ ビジネス上だけではなく、異文化における**生活、習慣、風習を肌身で感じ取る**
- ・ 相手の国籍/言語に関係なく、**自然体でのコミュニケーション能力を習得**
- ・ 相互に刺激し合える環境であるため、**仕事やキャリアに対するモチベーションが向上**

取り組み次第で  
無限大の可能性



# グローバル・コミュニケーション

わたしのチームで座談会してもらいました





ここからは、あくまで私のチームメンバーで  
座談したときの内容です。

一般論として「〇〇人」をくくるわけではありません。  
メンバの個人的体験から見えた範囲・推測によるものです。

**性別**

---

**男性**

・

**女性**

性別

×

人種

男性

・

女性

日本人

・

インド人

・

中国人

性別

×

人種

×

言語

男性

・

女性

日本人

・

インド人

・

中国人

日本語

・

英語

・

中国語

・

Java言語



<u>性別</u>	×	<u>人種</u>	×	<u>言語</u>	×	<u>好き嫌い</u>
男性		日本人		日本語		ベジタリアン
		・		・		・
女性		インド人		英語		焼肉大好き！
		・		・		
		中国人		中国語		
				・		
				Java言語		

<u>性別</u>	×	<u>人種</u>	×	<u>言語</u>	×	<u>好き嫌い</u>
男性		日本人		日本語		ベジタリアン
		・		・		・
女性		インド人		英語		焼肉大好き！
		・		・		
		中国人		中国語		
				・		
				Java言語		

ダイバーシティがやたらと高い！

## インド人

- 家族が最優先
- キャリアアップ  
重要
- 転職率高い

## 日本人

- トラブル後の  
理由がほしい
- 細かい資料を  
作る
- できるまで  
頑張る
- 訓練のせい？

## 中国人

- すぐ仕事に  
取り掛かる
- スピーディ
- 仕事と  
プライベートの  
メリハリ

## インド人

- スキル高い
- 依頼された  
タスクの目的・  
背景がほしい
- 役割以上のこと  
をしたがらない
- 最近の傾向？


## 日本人

- 高スキル人材の  
重要性について  
意識が低い
- 全部自分たちで  
やる
- 和をもって  
尊しとなす？

## 中国人

- 上下関係・役職  
が厳しい
- スクラムマスタ  
がちょっと権限  
もっている
- タスクを  
プルしない…？

人種関係  
ねえ！！



**「〇〇人だから  
仕方ないね」**

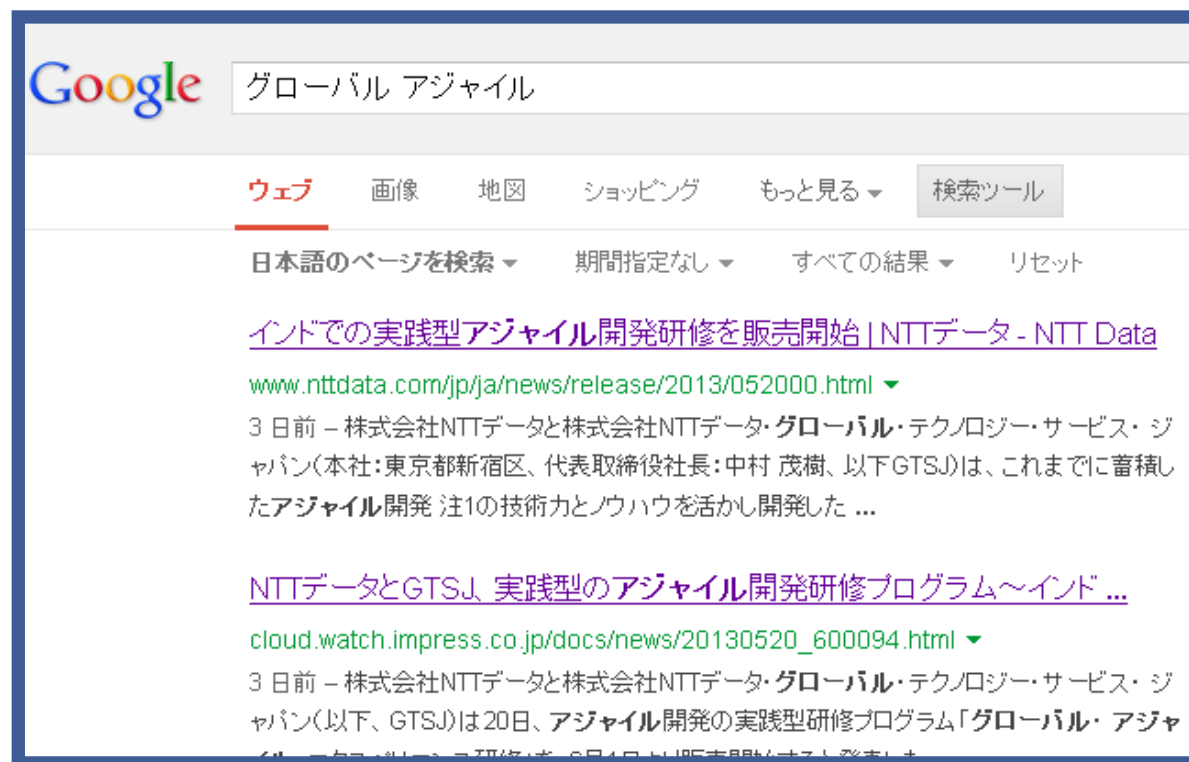
「文化が違う」を言い訳にしない  
コミュニケーションをあきらめない

生まれ育った文化が違っていても  
「同じプロジェクトのメンバー」

ビジョンを共有し、共通のルールを決めれば  
違った文化も持っていてチームになれる



グローバル・アジャイル・  
エクスぺリエンス研修  
受講者募集中！





# NTT data

変える力を、ともに生み出す。